

山もりごはんで力もち

呉市立阿賀小学校 二年 切川 琉誠

「おばあちゃん、ぼくもごはんおかわり。」

お兄ちゃんより少しでも早く大きくなって  
やろうと思いい、空っぽになったおちゃんを  
わたしました。二つ年上のお兄ちゃんには、  
何をやってもらってしまします。かけっこを  
しても水えいをして、ボール投げやべんき  
ようち。

「うわあ、たくさん食べてくれるけん、うれ  
しいわ。」

おばあちゃんは、「ごはんをたくさん食べる  
とすぐくよろこんでくれます。ほっかほか  
たき上がった白いお米の入ったおちゃんを  
りょうちで買って、ニコニコえがあてわたし  
てもらおうと、いくらでも食べられる気もちに  
なります。」

「むかしの人はいいしえうにもりもり食  
べるすがたを見るとよろこぶよ。お父さん  
もひいおばあちゃんにほめてもらったな。」

と、お父さんが鬼に出すように話してくれました。

ぼくは、お父さんが買ってくれた白まんが日本むかしはなしのダイーダイーを見るのが大好きで、おはなしに出てくるごはんはいつも山もりです。おむすびだつてドデカくて、とつてもおいしそうです。

もも太郎も金太郎も、みんな山もりごはんを食べて大きく強くなつていたし、ネズミたちもおじりさんがころがした犬をなのおむすびをもらつてすぐよろこんでいました。

ぼくには一つ目ひょうがあります。さよ年の八月から、お兄ちゃんといっしょにならうはいめた空手で強くなることです。一しゅうう間に二回、組手とかたをならいに行つていかたのしけんに合かくすると、おびの色がかわつていきます。

ぼくも、山もりのごはんを食べて力をつけ、空手のあがきみかいてしゅうきゅうしけんの合かくを目指します。